



『私はモンゴル人です。中国の北の方の草原から来ました。草原は広くて美しい所です。

昔からモンゴル人はこの土地で生活をしています。草原にも自分の生命力があります。もし山や川や砂漠などに霊があるとしたら故郷は神聖であり、神秘的な土地です。

草原の空はとても青くて、その上には白い雲が浮かんで鷹が自由に飛んでいます。緑の草原にたくさんの馬や牛や羊などが群がっています。まるで真珠をまいたように見えます。とても広くて、豊饒な土地だと思います。

私は小さい時からこの草原で馬に乗って成長しました。そして、子供だった私は、小さい時から家畜を友達のように思ってきました。今でも小さい時のことをよく思い出します。

広い草原で牧人が馬に乗って
モンゴルの『オリティンド』を歌って
青い空、白い雲、緑の草原、、、
馬や牛や羊の群、、、
曲がり続く黄色い道、、、

このような故郷を思ったら私は大好きな馬を思い出します。

私は、ガンガンハラという馬を飼っています。ガンガンハラは私が小学生の時に生まれました。メス馬です。生まれた時、父が私にプレゼントしてくれました。ガンガンハラという名前は、私が命名しました。それは私が見た映画の馬の名前を取ったのです。その馬は色が黒くて、格好よくて、勇敢な馬でした。私のガンガンハラもそのような馬に成長して欲しいという夢があったからです。

私は、まだ小さなガンガンハラの世話をしたり、一緒に遊んだりしました。毎日、草を自分で取って来てやりました。湖まで連れて行って洗ってやりました。そしてまた、母馬のお乳を飲むときは、私も一緒に飲みました。その時、ガンガンハラは私を押しつけようとして、強く体を押してきます。しかし、私も負けません。ガンガンハラと一つのお乳を奪いあいました。また、小さなガンガンハラと一緒に草の上に寝転んだり、首を抱いて遊んだりしました。

小学校の2年生の時、父が乗馬を教えてくださいました。その時私は体が小さくて、馬の背に乗ることができ

ません。そんな時は、父は私を抱いて馬の背に乗せてくれました。はじめはゆっくり走りましたが、速く走ると私は落ちました。でも落ちて、馬は逃げません。横で草を食べながら私を待っていてくれました。落ちた私はとても痛くて、涙がいっぱい流れました。それで、怖くなって歩いて帰ると父が私の様子を見て「男の子だよ！頑張りなさい」と言ってくれました。次の日からまた馬に乗りました。落ちました。泣きました。

私は始めに乗るとき落馬ばかりでした。ガンガンハラは私の足を2回踏みました。でも私は頑張って20日目にやっと乗れるようになりました。

ガンガンハラもあの映画の馬と同じように色が黒くて、格好がいい馬になりました。私はガンガンハラに乗って草原を自由自在に走り回りました。』

最近、私はしばしば自分の小さいときのこと、故郷の美しい姿を思い出そうになります。私はもう子供のころに戻れません。地球温暖化や気候異常が近年急速に進んでいるため、故郷の自然も私の小さいときの自然に戻れません。あの美しい草原では近年砂漠化が進んで、動物も人間も平和に穏やかに過ごすことが出来なくなっています。

“砂漠化” 日本には馴染みのない問題だが、世界的にみると地球の陸地の1/4がすでに砂漠化し、9億人が影響を受けているといわれています。

中国の内モンゴル自治区でも砂漠化は深刻化しています。数十年前まで豊かな草原だった地域が、人口増加にともなう過開墾・過放牧により、砂の大地に変わっています。家や畑が砂に埋もれ移住を余儀なくされるなど、住民の生活が脅かされています。

砂漠化が進むことにより、中国では日本円で毎年4,500億円もの経済損失と計算されています。また、この砂漠化の主要因と見られている黄砂が中国国内や韓国、海を渡った日本にまで被害を及ぼしています。

内モンゴル自治区は中国の東北、華北、西北に跨っており、北京、天津地区に隣接する重要な生態防衛線です。内モンゴル自治区では砂漠化した土地の面積は自治区総面積の約60%を占め、砂漠化は毎年約66万ヘクタールのスピードで拡大しています。中国では砂漠化が最も深刻化した地域の一つになっています。

砂漠化の影響は日本にも及んでいます。風に乗って運ばれる「黄砂」です。その量は、年間150万トンとされています。春先の偏西風に乗って、大量の黄砂が日本列島に達しています。屋外の車や洗濯物への被害から、健康被害、視界不良による航空への影響、さらに最近では、中国の工業地帯を通過した黄砂が含む汚染物質への懸念も高まっていることはよくテレビに報道されています。

かつて、緑の草原が永遠に広がるはずでしたが、しかし、今、砂漠化が急速に進んで、多くの国・地域に被害を与えています。内モンゴルの草原の減少、砂漠化の拡大は人間の活動が主原因になっています。

「過放牧」は、実は現在中国の市場経済の下で現れてきた新たな社会的現象です。農業に草原を奪われた遊牧民たちは、その残されたわずかの草原に依存して生きるしか道がありません。そして、放牧地を拡大することによって家畜を増やし、収入を増やす道がすでに閉ざされていることから、遊牧民たちは、所有の草原で家畜の数のみを増やして収入を増やす道を選択しました。これが、草場がその需要量以上の家畜を育成しているという意味での「過放牧」の現象です。「過放牧」が「砂漠化」を進めるというのは、「過」に原因があるのではなく、漢民族の内モンゴルへの大量の移住と農業開発によって草原が縮小して「遊牧」ができなくなったことの結果であることに注目しなければなりません。したがって、「過放牧」は「砂漠化成因」の一つではなく、むしろ、国、政府の政策や人間社会、そして、「農耕文化」と「遊牧文化」の違いが生み出した「砂漠化」の帰結として考えるべきです。

日本には砂漠地域がありません。『砂漠化』というのはどんなことがよくわからないかも知りません。しかし、日本に高度な技術があります。近年では日本と協力して砂漠を緑化する試みが行われています。例えば：

ウランダワ砂漠日中共同植林

中国・内モンゴル自治区での「地球温暖化防止と日中友好の森」づくり植林活動

信州大学農学部山寺教授が中国河南省・内モンゴル自治区で行っている荒廃地緑化の実験など行っています。

砂漠化問題は食糧問題です。世界の安定につながる重大な問題とされています。また、一度砂漠化してしまった土地は、元の土壌環境に戻ることが難しく、再利用困難となることが明らかになっています。そ

のため、環境を大切に保護して、砂漠化の拡大を防ぐ試みをしながらも、現在の砂漠を緑に戻す活動を心から願っています。

私の夢はいつか青い空、白い雲が浮かんだ、緑の海見たいな草原でたくさんのガンガンハラを育てて、平和な美しい草原を自由に駆け回ることです。どうか、そのような日がいつまでもいつまでも続いて欲しいと願っています。

この地球という星に生まれてきた人間、そして動物、植物にしても、故郷というところがあります。自分の故郷が何らかの原因で壊されています。もっとも罪が深いのは私たち人間です。人間は人種、文化、宗教、経済発展など多くの理由で自分の故郷を含めた環境を壊しています。地球環境を守ることは21世紀のもっとも重要な課題です。環境を壊して、人類はいくら高度な発展を成し遂げても意味がないことだと思います。もっと、全世界で協力して、この星を大事にして、守っていくことを心から願っています。将来、私たちの子供たちもたくさんのガンガンハラと一緒に遊んで育てられる環境が出来ることに努力したいです。

(松本クラブ主催 第12回アジア賞作文コンテスト
最優秀作品:2010年12月)